

vol.46-9 (通算 522号)

2016年12月号

# やどかり

2016年12月15日発行

(毎月1回15日発行)

1987年12月19日第三種郵便物認可

発行人 公益社団法人やどかりの里

代表者 土橋 敏孝

〒337-0043

さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-686-9812

定価 50円 (含会費)

## 日本健康福祉政策学会学術大会 in 埼玉 いのちの種を明日へつなぐ

### ～ほっこりと共に育つ～をテーマに

第20回日本健康福祉政策学会学術大会が、11月11日のエクスカージョン(やどかりの里の資源の見学)を皮切りに、12日～13日に大宮ソニックシティにおいて開催された。やどかりの里が中心となり開催する2回目の大会であった。当日の参加者は251人。各講演や公開討論会、趣向を凝らした壁新聞発表やワークショップが催された。

日本健康福祉政策学会(以下、政策学会)は、人々の健康を守り、障害や疾患があっても、高齢になっても、自分らしく暮らせる地域づくりを目指し、実践と運動、そして政策提案に当事者が参画すること、領域や地域を越えて交流することを大切にしている学会である。

昨年7月に最初の実行委員会を開き、やどかり農園の自然栽培の取り組みなどから、次代にいのちをつなぐ「種」に着目して検討を重ねてきた。実行委員会には学会の理事、県内の関係者、やどかりの里のメンバー、家族、職員が加わった。東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響が色濃く残る福島県相双地区で開催された第19回ふくしまセミナーからのバトンを受け取り、「いのちの種」について参加者と交流しながら考えられる企画を目指した。

2011年の東日本大震災や今年4月の熊本地

震など、今この時も日々の暮らしに困難を抱えている人たちがいる。また、7月にあった相模原の津久井やまゆり園での殺傷事件では、「障害のある人のいのちは不要ないのち」という容疑者の優生思想が効率主義、成果主義が優先される社会の中で育ってしまったことを感じる。そして少子高齢化、人口減少化社会を迎え、生活保護の生活扶助の切下げや介護保険法改正など、私たちの暮らしを守る社会保障制度がじりじりと後退している。

今学術大会では、こうした社会情勢を受けて、人と人との関係、人と自然との関係を改めて考え、住民の思いや願いを出発点に、暮らしやすい社会の実現のために何ができるのか、企画の段階から当日にかけて、多様な人たちとの共同作業を通して考えていく機会となった。記念講演で内山節氏(哲学者)より語られた「関係性の中にこそいのちがある」との話は、つながり合って生きる中で人間が本来持っている生きる力が育まれるのであり、それはやどかりの里が大切にしている理念にも通ずる。1人1人が大切にされる社会を、多様な人たちとゆるやかにつながりながら創り合っていくために、この2日間の学びを明日につなげていきたい。